

《コロナ禍の記録》

令和三年度卒業生総代謝辞(午前の部)

難波健太
(経済学部経済学科)

厳しい冬の寒さも和らぎ、穏やかな春の陽気を感じられる季節となりました。本日、この良き日に私たち卒業生・修了生のために、このような盛大な式典を挙行していただき、誠にありがとうございます。また、ご多用の中ご臨席を賜りました佐々木学長をはじめ、日高総長、松木理事長、教職員の皆様、並びにご来賓の皆様、卒業生一同心より御礼申し上げます。

四年前の春、私たちはこの日本武道館で専修大学生として新たなスタートを切りました。勉学と新生活に対し、期待と不安で入学式を迎えたあの日が、昨日のことのように鮮明に思い出されます。講義やサークル活動など、初めての経験の連続に戸惑うことも多々ありましたが、教職員の皆様からの応援や、大切な時間を共に学び過ごした友のおかげで、充実したカリキュラムと恵まれた学習環境のもと、かけがえのない実り豊かな大学生を送ることができたと身に染みて感じております。

自分の裁量で多くのことを決めることができるようになった大学では、自身の興味のある分野を見つけ、深く学ぶことができ、学問の奥深さや楽しさを見出すことができました。また、多様な価値観を持つ人々との出会いが、社会を見る視野を広げ、新たなものの見方を私たちに授けてくださいました。



令和3年度卒業式（午前の部）総代・難波健太さん

しかし、私たちの学生生活は決して楽しい思い出ばかりではありませんでした。とりわけ、新型コロナウイルスの感染拡大は、それまでの生活を一変させるほど大きな影響を与えました。多くの授業がオンラインで行われることとなり、自宅での学習を余儀なくされる期間が長く続きました。一人での勉学に孤独感や寂しさを覚え、時には勉強や研究に不安が募りましたが、それを乗り越え、最後まで成し遂げることができたのは友人のおかげです。途中で心が折れそうになった時、どんなに環境が変わっても、夢や目標に向かって頑張り続ける仲間の姿がありました。

振り返ってみますと、このような苦しい状況にあっても、お互いに励ましあい、勇気ももらうことによつて、逆境を成長するきっかけへと変えることができたように感じます。また、このような入学時には予想し得なかつた環境に対し、それぞれが工夫・対応し乗り越えた経験は、自らを信じ、決して諦めない強い心を与えてくれたのではないのでしょうか。その証として、本日集まった私たちの顔は、四年前と見違えるほどに逞しく、はつらつとし、その成長は一目でわかることでしょう。

ゼミナールの教授が、大学の学びで得た「知的廉直性」こそが、学びの本質であるという言葉を下さりました。知的廉直性とは、真理を追求する過程で、正しいことを正しいと認め、これまでの自分の考えが間違っていたならばそれを素直に正すこと、このような知的な柔軟性、すなわち素直さのことを意味します。四年間の学びの過程で何度も超えなければならぬ壁に直面し、時には周りとの意見が対立することもありました。それを必死に乗り越えようとする過程で、私たちは単なる知識の量だけでは測ることのできない重要なこの力を身に付け、高めていったのでしょ

う。今日の社会が抱える問題は複雑化・多様化してきており、より柔軟に物事を捉え対応する能力が求められてきていると思われれます。大学の学びで得たこの知的廉直性を胸に刻み、未来に向け歩んでいきます。

本日、私たちは未来への大きな希望を抱いて、それぞれの新たな進路へと旅立ちます。社会の一員となるにあたり、多くの困難が待ち受けていることでしょう。その様なとき自分自身を奮い立たせてきた専修大学での日々と、今持つ揺るぎない決意を決して忘れません。私たちはこの目まぐるしい社会で、一人で生きていくことはできません。在学中も多くの方の支援をいただき、今の私たちがあります。これからは、他者の支えに元気をもらうだけでなく、大切な人々に手を差し伸べる存在となれるよう、大学で得た財産を最大限に生かし社会に貢献していきます。

最後になりましたが、晴れて本日、卒業の日を迎えることができましたのは、温かく時に厳しく未熟な私たちをご指導くださいました先生方、いつも親身にご支援くださった職員の皆様、共に学び切磋琢磨した仲間たち、そして今まで見守り支えてくれた家族、すべての皆様のおかげです。卒業生・修了生を代表して心より御礼申し上げます。そして、歴史ある専修大学の更なる発展を祈念し、謝辞とさせていただきます。

令和四年三月二十二日